

2024年1月1日

【清真学園 校長室だより】 休眠打破

今年から、普段、清真学園の校長室で思いをめぐらせていることを少しまとめ、お伝えさせていただくことにしました。本校の日常をお伝えすることが多いと思いますが、広く学校教育の在り方を再確認する機会にもしたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

以前、桜の開花について、興味深い話を聞いたことがあります。「休眠打破（きゅうみんだは）」というらしいのですが、桜の開花には、ある程度の寒さが必要で、その寒さにさらされることで秋から冬にかけて眠っていた桜が目を覚ますというのです。そのため、冬が暖かく気温が高めだと休眠打破は遅れがちになり、春の開花も遅くなります。そういえば、野菜作りをしている知人も寒さの必要性を言っていたことを思い出します。例えば大根は、寒さの中で自分の体の中に栄養を溜め冬を乗り切ろうとするので、自然に甘くなる、だから冬大根はおいしいのだと。

私たちにとって生徒は、いわば桜であり冬大根です。いつか美しい花を咲かせ、人々の目を楽しませる存在になって欲しい、おいしい大根になって欲しいと願わない者はいません。学校の果たすべき役割も様々ですが、子どもたちの人格を磨き人間味を増すために、「ある程度の寒さ」、言い換えれば「成長するためにどうしても必要なある程度の厳しさ」を与え続けることはとりわけ重要だと考えています。

清真の子どもたちは、素材として申し分ありません。彼らは皆、おしなべて、とても素直で柔軟です。それ故、「寒さ」を糧として大きく伸張しうる存在であることに疑いの余地はないと感じています。であればこそ、我々は、春の満開の桜を楽しみに待つ、冬の寒さであり続けたいものだと思います。

年明けの全校集会では、新年の賀詞を述べる代わりに、能登半島地震の被災者を見舞う思いを生徒と共有させていただきました。彼らには、社会的に弱い立場にある人々に常に思いを寄せることのできる、想像力のある骨太のリーダーに成長して欲しいという思いと期待を伝えました。

それでは皆様 本年も、どうぞよろしくお願い致します。